

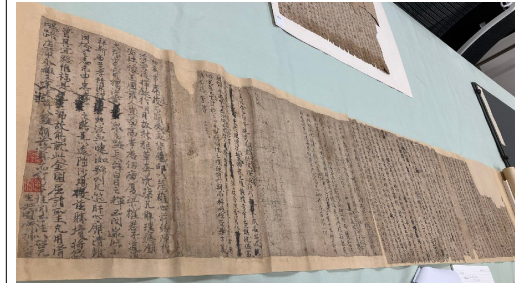
古代チベット帝国と 敦煌の漢人たち

—杏雨書屋所蔵羽77Rと羽689を中心に—

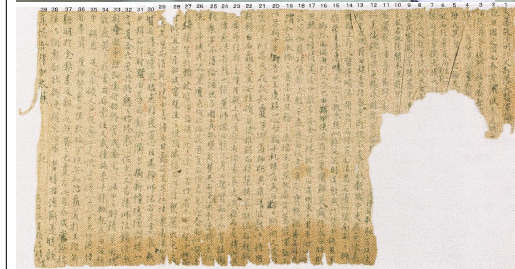
岩尾一史（龍谷大学）

1. 羽77Rと羽689

羽77Rと羽689



羽77R

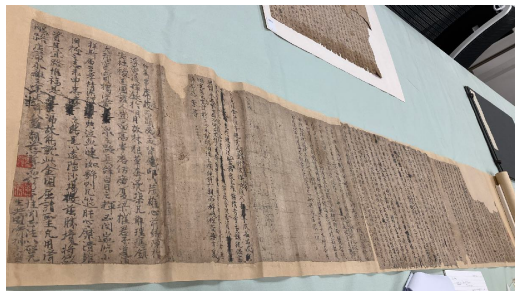


羽689

1. 羽77Rと羽689

羽77R

願文の草稿を卷子本状に連ねたもの



1. 羽77Rと羽689

羽77R



(2)本闡晡（鉢闡晡）就靈龕祈願文稿（擬）

- ・鉢闡晡（ペルチェンボ・デンカ・ベルギヨンテン）
- ・チベットの仏僧。ティツクデツェン皇帝（815-841）の時、宰相の地位にあった。

(3)某判官爲國相尚乞心兒祈福文稿（擬）

- ・尚乞心兒（シャン・ティスムジェ）
- ・ティツクデツェンの時、宰相の地位にあった。

(4)贊普願文稿（擬）

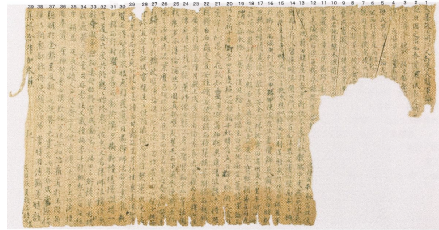
- ・贊普（ツェンボ）チベット皇帝。

* (1) (5) (6) もおそらくチベット人のための願文

1. 羽77Rと羽689

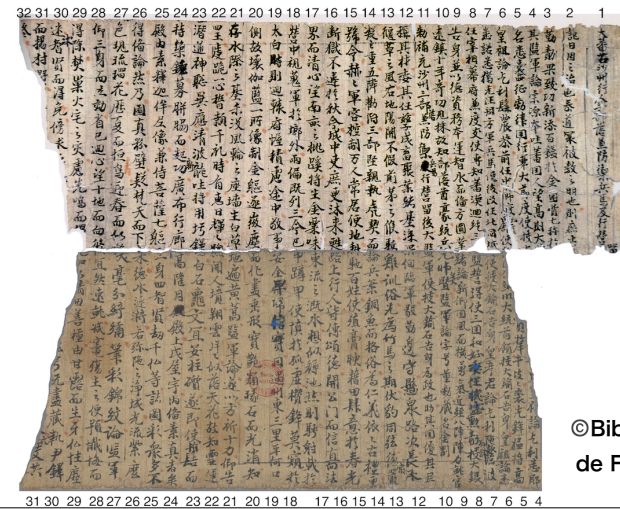
羽689

- ・漢語の功德記。チベット人官僚である論董勃藏（論トンザン）が敦煌の仏寺を復興したことを讃える。
- ・チベット史の史料として貴重。論董勃藏の先祖が長く記されており、中にはチベットの外交的成功である四（三）国会盟についての言及がある。
- ・撰者が特定できる（後述）。



1. 羽77Rと羽689

同内容（*異同あり）のテキスト 「論董勃藏功德記」



Dx 1462

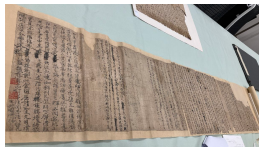
『俄藏敦煌文献』8
より

P.ch.3829

©Bibliothèque nationale
de France

1. 羽77Rと羽689

羽77Rと「論董勃藏功德記」



羽77R

*R= Recto
「おもて面」



「論董
勃藏功
徳記」

共通点

- ・チベット支配時代の敦煌で作成された漢文の功德記（いずれも草稿）。チベット人高官のために記された。

疑問

- ・誰が書いたのか？
- ・何のために書いたのか？
- ・どうやって書いたのか？

2. チベット帝国における敦煌

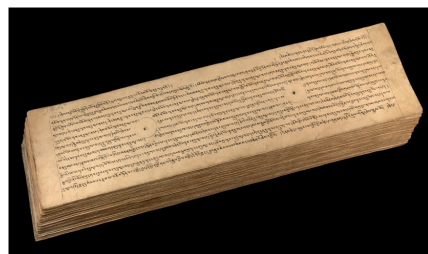
チベット帝国内における敦煌 行政単位として

- ・786年-848年の間、チベットに支配される。
- ・河西回廊の中では最晩期に支配下へ（764年：涼州、766年：甘州・肅州、776年：瓜州）。
- ・行政単位としては辺境の一都市。



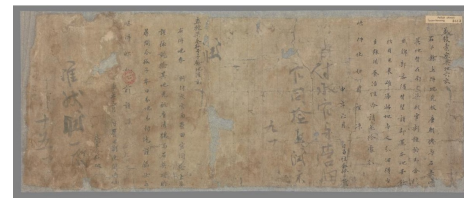
チベット帝国内における敦煌 仏教の拠点として

- ・ 中国仏教の拠点。
- ・ 写経事業の拠点に選定される。
 - ・ 『十万頌般若経』（チ）と『大般若経』（漢）
 - ・ 『無量寿宗要経』（チ・漢）
- ・ 敦煌莫高窟の組織的修復。



IOL Tib J 105
©The British Library

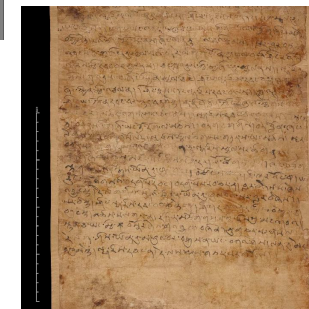
チベット語の世界・漢語の世界



P.ch.3613 令狐子餘請地牒 ©BnF



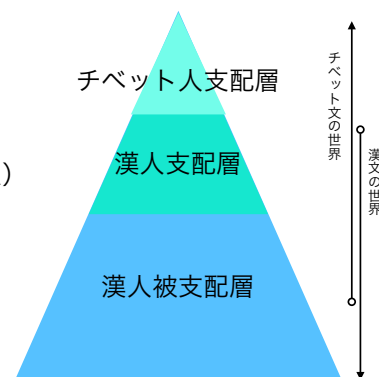
IOL Tib J 793 社司転帖 ©The British Library



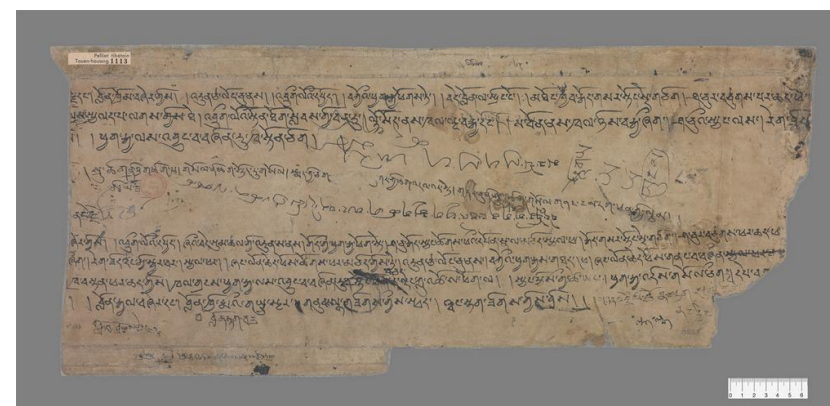
S.2228 土地訴訟文書（稿）

チベット支配下の敦煌社会の文章

- ・ 少数のチベット人支配層
- ・ 中間の漢人支配層（敦煌の有力漢人）
- ・ 多数の漢人被支配層



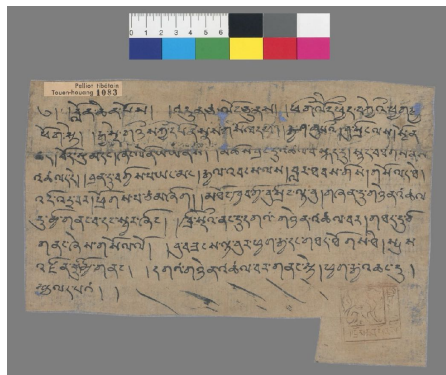
帝国内で漢人が出世するには チベット語の習得と書記への道



Pt.1113 ©BnF

チベット語の力：横暴への対抗手段 P.t.1083 (807年)

- ・敦煌漢人たちの訴え
 - ・チベット人たちが敦煌の女性を結婚相手にすると言って連れて行く。敦煌の万戸部内での婚姻のみを認めてほしい
- ・チベット政府の回答
 - ・万戸部内でのみ婚姻を認める。



P.t.1083 ©BnF

誰が書いたのか？

「論董勃藏功德記」

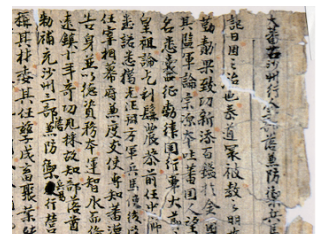
- ・寶良驥の撰 (李 1997: 252、岩尾 2014: 211)
- ・ S.779v 大蕃國子監博士寶良驥撰「大蕃沙州釋門教授和尚洪辯修功德記」
- ・ P.t.1070 大蕃古敦煌郡布衣寶驥撰「大蕃敕尚書令賜大慈悲告身尚起律心兒聖光寺功德頌」
- ・ その他多くの功德記や讃文をチベット支配下の敦煌で記した人物。

羽77R

- ・ 作者は不明。

「論董勃藏功德記」

- ・ 羽689もDx1462+P.ch.3829いずれも草稿。ただし、おそらく羽689の方が完成に近い。
- ・ 作文した人と書記は別人。
- ・ 羽689：罫線無し。文章がより簡明。
- ・ Dx1462：他の写本用の罫線。



誰に対して書いたのか（確認）

「論董勃藏功德記」＝敦煌在住のチベット人

- ・ 「古（＝故）沙州行人三部落兼防禦兵馬及行營留後使」の論董勃藏
- ・ 行人三部落＝チベットが敦煌に設置した3つの漢人軍千戸部
 - ＊「漢人反乱のリーダーであった王淨常兄弟の家屋は、論ドンザンの手に入ってから、…」 (P. t. 4219、チベット文手紙)

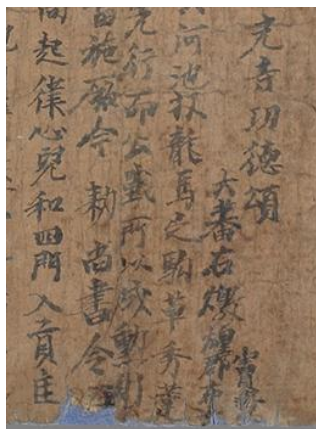
羽77＝チベット中央の権力者

- ・ ツェンポ、宰相の仏僧ペルチェンポ・デンカ・ペルギヨンテン、宰相の尚ティスムジェ
 - ＊ 敦煌とは関係が無い人々。

3. 羽77Rと羽689が作成された社会的背景

何のために書いたのか？

- ・チベット人に対しての功德記、讃文。
- ・執筆者本人との関わりは皆無：言語の壁/中央の宰相やツェンポ
- ・入念な執筆過程。
- ・「布衣」 寶良驥
- ・依頼者は誰か？ 資金の問題



P.t.1070 (part) ©BnF

3. 羽77Rと羽689が作成された社会的背景

仏教に関わる作文 仏教関係者の依頼か？

寶良驥

- ・ P.ch.3425 「金光明最勝王會功德之讚」
- ・ P.ch.3703 「釋迦牟尼如來涅槃會功德之讚」
- ・ P.ch.4638 「大蕃古敦煌郡莫高窟陰處士公修功德碑」
- ・ P.ch.4640 「故吳和尚讚」
- ・ P.ch.4640 「先代小吳和尚讚」
- ・ P.ch.4640v 「寶驥七言律詩一首」
- ・ P.t.1070 「大蕃敕尚書令賜大慈惠告身尚起律心兒聖光寺功德頌」
- ・ 羽689/Dx1462+P.ch.3829 「吐蕃論董勃藏修伽藍功德記」

作者不明（羽77）

- ・ 本聞晡就靈龕祈願文稿（擬）
- ・ 某判官爲國相尚乞心兒祈福文稿（擬）
- ・ 贊普願文稿（擬）

3. 羽77Rと羽689が作成された社会的背景

どうやって書いたのか？

チベット人についての詳細な情報

「論董勃藏功德記」

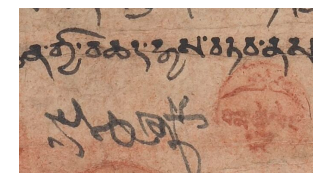
- ・ 「曾皇祖論乞利悉耶名悉囊西、征勃律國、行軍大節度使、授□[——]賢犛牛皮之裘、先鋒猛將。高皇祖論乞利髻農恭、前任中節度函館使□□□川大統首領、授大鑲石告身。皇祖論悉悉諾悉獫、先征朔方軍兵馬使、後改任北同城使、授大鑲石告身。皇考君論乞利陀歆臨波任宰相幕府兼度支使、專知蕃漢迴紇三國盟誓、得使三國和好、委任機密、勲勳有殊、授大銀告身」

羽77R

- ・ 「我 國相尚乞心兒、名山託孕、」
 - P.t.1287：ド氏のティスムジェ・タクナン
'bro khri sum rje stag snang

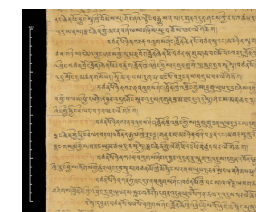
チベット文化と河西回廊

- ・ チベット文・チベット語の浸透：ファッショナブルな第二言語（武内 2012）



P.t.1078bis (part) ©BnF

- ・ 帝国の情報がチベット語を介してダイレクトに入る
- ・ 帝国崩壊後も続くチベット文化の流入：チベット語の密教經典



IOL Tib J 750 (part) ©BL



IOL Tib J 1364 ©BL

仏教界を通じての情報？

「傍求恵眼、引發道心、**因遇禪師、法名無盡藏、**」

「又有**律師法鏡**、將承創令、敏事諮詢、委付助修、當成勵節、」

(羽689, ll. 30, 32)

- ・ 論ドンザンと仏僧たちとの出会い。
- ・ 法鏡：チベット文による書き込み。
 - ・ チベット語による交流？
- ・ 仏教界におけるチベット語の浸透（法成 chos 'grub）

敦煌の仏教とチベット帝国

- ・ ティツクデツェン（c. 815-841）治世期における仏教界への資金の流入。

- ・ 大規模な写経事業
- ・ 寺院修復への寄付（P.t.1070、「論董勃藏功德記」）
- ・ 寺院への寄付（岩尾 2011）
- ・ 莫高窟の修復

＊ただしこれらの資金は事実上敦煌から取り立てられていた（岩尾 2007）。

主要参考文献

岩尾一史（2007）「チベット支配下敦煌の納入寄進用リスト——IOL Tib J 575, 1357 (A), (B) の紹介」『敦煌写本研究年報』創刊号: 165-189.

岩尾一史（2011）「古代チベット帝国支配下の敦煌における穀物倉会計——S.10647+Pelliot tibétain 1111の検討を中心に」『内陸アジア言語の研究』26: 39-74 + 32 pls.

岩尾一史（2014）「再論「吐蕃論董勃藏修伽藍功德記」——羽 689 の分析を中心に」『敦煌寫本研究年報』8: 205-215.

『俄藏敦煌文獻』17 冊，上海古籍出版社，1992-2001.

武内紹人（2002）「帰義軍期から西夏時代のチベット語文書とチベット語使用」『東方学』104: 124-106.

馬 徳（2011）「吐蕃国相尚絅心儿事績補述——以敦煌本羽77号為中心」『敦煌研究』(04): 36-44.

森安孝夫（2015）『東西ウイグルと中央ユーラシア』名古屋大学出版会.

李正宇（1997）「吐蕃論董勃藏修伽藍功德記両残卷の発現、綴合及考証」『敦煌吐魯番研究』2: 249-257.